

コレクション展示

近現代の彫刻 IV 彫刻のつくり方～「ブロンズ」って何？

令和8年1月17日(土)～4月5日(日) 展示室1

彫刻作品はどのように作られているのでしょうか？それは何を素材にするかによって変わってきます。木や石を「彫る」、溶かした材料(金属や樹脂など)を「型に流す」、陶土で「形をつくって焼く」、既製品を「合体させる」など、さまざまです。今回は、金属素材の代表である「ブロンズ」のつくり方と作品を紹介します。

「ブロンズ」という言葉は、第一に「銅」を意味しますが、美術作品で言うブロンズは、銅に少量の錫(すず)、亜鉛などを加えた合金(合成金属)です。これをどのようにして形にするのか、一般的なブロンズ彫刻制作の工程モデルを展示していますので、ご覧ください。

ブロンズ彫刻と言っても、その手法は作家、作品によって異なります。たとえばミロの彫刻は、普通使われる粘土ではなく、廃材を寄せ集めて原型を作り、その後、ブロンズに置き換えられました。黒川弘毅は、溶かしたブロンズを、普通は型に流すところを、砂の上に流して偶然できる形を作品にしています。

展示室右手では、フランソワ・ポンポンの彫刻をブロンズ素材の観点から紹介します。ブロンズの特徴を知るために、「ブロンズではない」作品も一緒に展示しています。ぜひ比べながらご覧ください。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ×幅×奥行) cm	備考
1		ブロンズ彫刻の制作工程モデル(抜粋)				制作: ブロンズスタジオ
2	ジム・ダイン	キング・パロット	1995	ブロンズ	216.0 × 122.0 × 112.0	
3	ジョアン・ミロ	鳥	1970	ブロンズ	60.7 × 40.7 × 40.7	
4	パリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	
5	黒川弘毅	Moon Fish No.2	1986 - 1987	ブロンズ	50.0 × 140.0 × 45.0	
6	フランソワ・ポンポン	仔牛	1900	石膏	11.4 × 14.1 × 7.8	
7		ラクダ	1906 - 1930	ブロンズ	15.6 × 23.0 × 6.0	
8		風見鶏	1908 - 1932	銅板	47.0 × 54.4 × 6.0	
9		ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	
10		ほろほろ鳥の頭	1910 - 1914	石膏	7.3 × 10.5 × 6.8	
11		牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	
12		ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	
13		ヒグマ	1918 - 1926	石膏	10.5 × 15.5 × 5.9	
14		ヒグマ	1918 - 1926	石膏	10.2 × 15.4 × 5.9	
15		雉鳩	1919	ブロンズ	24.0 × 8.7 × 9.5	
16		シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	
17		シロクマ	1923 - 1933	銀合金	24.0 × 44.0 × 12.4	
18		シロクマ	1923 - 1933	ブロンズ	12.0 × 23.5 × 5.0	
19		フクロウ	1923	ブロンズ	17.7 × 7.9 × 8.2	
20		雨の中を駆け回る雄鶏	1923	石膏	5.5 × 8.3 × 4.6	
21		七面鳥	1923 - 1924	石膏	8.8 × 9.3 × 5.7	
22		水上で胸を張る鴨	1932	石膏	6.2 × 9.2 × 4.2	
23		オラン・ウータン(頭部)	1930	石膏	34.3 × 23.0 × 20.0	
24		オラン・ウータン(頭部)	1930	ブロンズ	33.0 × 22.5 × 20.2	
25		大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	

*リストの順番は展示順と異なる場合があります。

所蔵は全て当館蔵

*展示作品は都合により変更となることがあります。